

正式名称	三井化学(株) 技術研修センター
場所とアクセス	JR 茂原駅 タクシー 5分、徒歩 20分
研修センターの概要	<p>1. 開設 生産現場力の強化のため、プラント運転員の研修施設として 2006 年 10 月開設</p> <p>2. 設備概要 総面積 1 万平方メートルの敷地内に 1500 平方メートルの研修建屋を持ち、大小研修室、安全体験装置、各種カットモデル、屋外体験設備など、各種教育設備を設置している。また化学プラントの代表的な単位操作であるメタノール蒸留運転設備およびシミュレーター訓練設備が備っている。</p> <p style="text-align: center;">技術研修センター 外観 図-1</p>  <p style="text-align: center;">メタノール蒸留 運転訓練設備 図-2</p> 

体験型研修の内容

シミュレータ訓練

図-3



3. 技術研修センターの役割

①教育レベルの均一化

各工場で行われてきている現場運転員教育の内容、レベルのバラツキをなくす役割を果たしている。

②体験型研修に関し、研修設備を集約し、講師を専任化し教育の効率化、内容の充実を図っている。

1. 研修カリキュラム概要

①安全体験

化学プラントで起こりうる、爆発・火災、静電気、挟まれ巻き込まれ、墜落・落下、転倒、熱傷、薬傷、被液、酸欠などの事故・災害を体験する事で安全について学ぶ。

被液体験研修

図-4



爆発・火災、静電気安全体験

図-5

爆発・火災



静電気

墜落・落下体験

図-6



② 運転・設備トラブル体験

化学プラントで起こりうる典型的な運転トラブルや設備トラブルについて、過去の事例を使いながらカットモデルなどの教材や実機を用いた体験および実演を通じて学ぶ。

各種カットモデルでの学習

図-7



③運転体験

メタノール蒸留運転設備およびシミュレーター訓練設備を用いて、単に蒸留運転技術を学ぶのではなく、メタノール蒸留運転体験を通じてチームで運転管理を行う際の各担当の役割分担や各操作における安全な作業、復命・復唱などの報告・連絡・相談の重要性など、運転操作の基本を学ぶ

失敗の現物から
学ぶ姿勢


1. 自社で起きた事故の現物を展示して学んでいる。

過去の災害を知る

図-8



2. 過去に三井化学で経験した災害事例はトラブル事例を研修に折り込み、何故そのようなトラブルは起こったのか、どうすれば防止できるのかをイラストなどを用い、考えてもらう。

	<div style="text-align: center;"> <p>KY資料 図-9</p> <p>どんな危険があるか</p> <p>作業内容: 圧力計確認中</p> </div> 
感想	<p>① プラント運転技術者に特化した教育センターで、前記から推察していただけるように「運転、安全、設備」に強い運転員が育成されていると感じた。ハード面、ソフト面の両面から非常に充実した内容の教育が実施されている優れた研修センターであることを実感した。</p> <p>② 自社の失敗事例から学ぶ姿勢として、諸事情からなかなか実施することができない、工場で起きた事故の現物をモニュメントとして技術研修センターへ移設して全社で事故から学ぶことを共有し、活用している</p> <p>③ 当初は、研修は三井化学グループの国内外の関係会社の社員に限定されていたが、2015年度からはグループ外にも開放している。企業の壁を超えた人材育成、積極的な外部からの研修生の受入れの姿勢を讃えたい。京葉コンビナートの枠を超えて、多くの企業がこの技術研修センターで学ぶ姿は三井化学の先駆性を感じた。</p>
公開状況	<p>技術研修センターは、三井化学グループの国内外の関係会社に研修を実施してきたが、2015年度からグループ外にも研修を開放している。</p>
問い合わせ先	<p>窓口：三井化学㈱ 技術研修センター 電話 0475-22-0105</p> <p>E-mail:mobara-kensyu@mitsuichemicals.com</p>
アクセス	<p>東京駅から JR 京葉線、外房線 特急で約 1 時間、羽田空港からアクアライン経由直通バスで約 1 時間、茂原駅からタクシー 5 分、徒歩 20 分</p>
見学日 作成者	<p>2016 年 1 月 6 日</p> <p>中田 邦臣 見学の際、拝受した資料を基に作成</p>